

令和7年度府中市立府中第十小学校授業改善推進プラン（学校全体の取組）

1 現状及び課題等

◎児童・生徒の資質・能力を育成するため、教育活動で特に重視する4つの視点➡ 【発見すること】【対話すること】【決定すること】【表現すること】

(1) 学習改善の視点（児童の学び方）

- ①主体的な学び（教師と学ぶよりも、一人や友達と学ぶことが好きな児童が80%以上。）
- ②学習内容の定着（算数のベーシックドリル診断テストでは、2・3年生の正答率が90%程度だが、4年以上は70%程度。4年以上で満点は7%程度。）
- ③デジタルツールの活用（デジタル教科書の効果的な活用が今後の課題。）

(2) 指導改善の視点（教師の指導方法）

- ①社会科を中心とした単元内自由進度学習の継続
- ②算数少人数指導において、児童の習熟の度合いに応じて、「順番」と「時間配分」を工夫した指導への授業改善
- ③全教科におけるデジタル教科書の活用

2 学校全体で目指す授業像

(1) 目指す児童の学びの姿

- めあてや見通しをもって、自分で学習課題を解決する。学習の振り返りをし、次の学びに生かす。
【発見・決定】
- 友達との交流（トリオ、学級全体）で、自分の考えを広げたり、深めたりする。【対話・表現】
- 間違えた問題や、時間が経って忘れてしまった問題の復習を繰り返す。

(2) 目指す授業像

- 問題解決的な学習の充実【発見・対話・決定・表現】
 - ・①教員が説明する場面
 - ②児童が問題を解決する場面
 - ③習熟を図る場面 を意識して授業を行う。
 - ・上記のうち、②③の時間を確保する。
- 全員に1単位時間の評価規準を達成させるために、児童の状況を把握し、適切な指導や支援を行う。

3 学校全体で取り組む授業改善の具体的な取組

(1) 各教科における授業改善のポイント【全学年共通】

国語	○「読むこと」に重点を置く。【親・読・読・親】 ○問題解決的な学習にも取り組み、児童の発達段階に応じた単元内自由進度学習を行う。	社会	○単元内自由進度学習を基本とし、②の時間を確保する。②の中で、友達との交流を行う。 ・多様な調べ方（人、見学、タブレット）を取り入れる。【親・読・読・親】
算数	○基礎的な事項の習熟のために、③の時間を確保する。【発見・決定】 ○中位・下位層については、内容によって集団解決や復習、習熟などの構成を工夫する。	理科	○問題解決的な学習を基本とし、②の時間を確保する。【親・読・読・親】 ・実験を行う学習では、予想（仮説）や結果、考察を学級やグループで共有する。
生活	○児童がめあてを理解し、活動を楽しめるようにする。②の時間を確保する。【親・読・読・親】 ○活動を通した気づきを発信させる。【表現】	音楽	○歌唱や演奏の楽しさを味わわせる。【発見】 ○発達段階に応じて、アプリ等を活用した演奏や作曲などに取り組ませる。【発見・表現】
図画 工作	○作品づくりの楽しさを味わわせる。【発見】 ○発達段階に応じて、アプリ等を活用した製作や鑑賞に取り組ませる。【発見・表現】	家庭	○日常生活に生かせるようにする。【発見】 ・衣服の調整や家庭の手伝い、消費者教育などは家庭での実践と結び付けさせる。【発見】
体育	○運動の楽しさを味わわせ、運動の日常化へとつなげる。【発見・決定・表現】	外国語	○「聞くこと」「話すこと」に重点を置く。 ・学習者用デジタル教科書も活用する。【表現】

(2) 児童用タブレット端末の活用【市共通】

- ・児童が、ノートやタブレット端末を選んで活用することを日常化する。
- ・児童が、紙またはデジタルの教科書を選んで活用することに取り組む。
- ・児童が、スライドなどの発表ツールで発信することを重視し、全教育活動で取り組む。（特別活動も含む）